

## 平成26年度 大規模建設事業評価監視委員会のご意見と今後の対応方針

### ■No.4 (仮称)下水道における防災・機能保持に向けた基盤強化【事前評価】

項目	委員の意見	評価監視委員会のご意見を踏まえた今後の対応方針
<p>指標① (浸水対策率)</p>	<p>5年に1度の雨に対する対策でさえ61.5%しか完了していないのに、10年に1度の雨に対する対策を優先してしまうと、特定の人に受益を与えるという形に見えてしまう。 指標の設定にあたっては、市民の目から見てどうかという観点を意識していただきたいと思います。</p>	<p>都市機能の集積状況や地形条件など、浸水被害の大きさは地域によってバラツキがあります。 今後は、市全域の浸水対策を進めるとともに、市民生活に重大な影響を及ぼす床上浸水被害の発生地区において、10年確率降雨に対応した施設整備を重点的に推進していきたいと考えています。</p>
<p>指標③ (重要幹線の耐震化延長)</p>	<p>重要幹線の耐震化の計画数値だけ見ると、100年かかってしまうというイメージをもってしまう。何かあったときにはきちんとハード整備のほかにソフト対策でもって対応できますよ、ということが明示されると市民は安心できるのではないのでしょうか。</p>	<p>災害発生時の対応体制強化のため、平成25年度に下水道事業継続計画(下水道BCP)を策定しました。 今後は、下水道施設の耐震化を着実に進めるとともに、下水道BCPを踏まえた訓練を定期的に行うことにより、職員の意識向上や機能回復までの時間短縮に努め、ソフト対策とあわせた地震対策に取り組んでいきたいと考えています。</p>
<p>その他</p>	<p>ハード整備には予算にも限りがあって進捗がなかなかかどらない中、大きな自然災害が発生したときに、いかに早く復旧できるかということについて、ソフト面の対策というのは非常に重要なので、力を入れていく、これだけの準備をソフト的にも備えます、ということも謳っていいのではないかと思います。</p>	<p>災害発生時の対応体制強化のため、平成25年度に下水道事業継続計画(下水道BCP)を策定しました。 今後は、下水道施設の耐震化を着実に進めるとともに、下水道BCPを踏まえた訓練を定期的に行うことにより、職員の意識向上や機能回復までの時間短縮に努め、ソフト対策とあわせた地震対策に取り組んでいきたいと考えています。</p>